# My Water

## 第2号

発行 一般財団法人 横浜水道会館 横浜市保土ヶ谷区宮田町1-5-7 電話 (045) 341-6861 責任者 石 井 栄 一

## 「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放 第34回全国集会 in 金沢」参加報告 川原 -知

10月8日から9日にかけて「水と緑と癒しの町」石川県金沢市で『きれいな水といのちを守る合成洗剤追放第34回全国集会』が開催された。

この活動は、日本経済が高度成長期で河川・湖沼・大気汚染が大きな社会問題となっていた1974年に「合成洗剤追放全国連絡会」が結成され、今年で41年となる長い歴史のある取り組みである。

合成洗剤が水を汚染し水環境を損ね、「安全・安心・低廉」の達成を託された水道水の供給の持続性を脅かすものと考え、合成洗剤や有害な化学物質に頼らないライフスタイルを提案する運動に横水も賛同し、これまで地道に運動してきた。

現代の合成洗剤や化学物資を取り 巻く環境は、これまでの様々な取り 組みにより、洗剤業界における生産 過程にも大きく影響を及ぼし、環境 への配慮を促すことができた事は活 動の成果と言ってよい。

今回の第34回全国集会は、金沢駅から程近い石川県文教会館と金沢市文化ホールを会場として開催された。

はじめに実行委員長である山本由 起子さんの挨拶で開会が宣言され、 金沢市公営企業管理者の桶川秀志さ んの来賓挨拶、実行委員会事務局長 の辻谷貴文さん(全水道)の基調提 起と続いた。



講演

「脱原発と水環境」と題し、元京 都大学教授で京大原子力実験所助教 の小出裕章氏の講演があった。

福島第一原発事故を題材に、①広島型原爆の約168発分の放射性物質が大気中に放出されたこと②放射能は人間の五感で感じられないし、感じられるほど存在していれば人間は生きていられないこと③原子力を選んだことに責任の無い子供たちほど放射能には敏感である④事故は今もコントロールされておらず、敷地内は汚染水で溢れている⑤汚染水に含まれるトリチウム(三重水素:H3O)はどんなに努力しても除去できない、など分かりやすく伝えられた。

締め括りとして、これまで日本でも世界でもたくさんの公害が起きているが、多くは水を汚したことに起因する。人体の6~8割は水であり、水を汚してしまえば人は生きること

ができない。放射能を 消す力を人間は持って いないし、トリチウム はどんな手段でも自ら 除去できない究極の環 境汚染であると訴えら れたことが非常に印象 的だった。

#### 特別報告

「河北潟の生物と水環境」と題して、NPO 法人河北潟湖沼研究所 理事長の高橋久さんより報告がされた。

河北潟とは能登半島の付け根にあり、かつては海水が入り込む汽水湖だったが、国営の干拓事業と水門設置で完全淡水化された。そのため本来の生態系が失われ、富栄養化が進み、現在では透視度40cm程度の濁った湖となってしまった。

この失われた環境を取り戻すために、地域住民や自治体と協力したクリーン作戦や、外来生物の除去活動、野菜やお米など新しい農業の提案や農家との協働を進める取り組みなどが報告された。

潟だけ捉えていては豊かな湖は戻らないことや、失われた潟の環境を取り戻すためには、流域全体の環境が健全ではならないこと、そのためには地下も含め健全な水の流れが確保されている必要があることを学習した。

また、全体集会後に「第27回きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国連絡会総会」が開催され、こ



の中で次回以降は「きれいな水といのちを守る全国連絡会」として、これまでの合成洗剤追放運動を礎に、 新たな出発をすることが確認された。

1日目はこれで終了し、金沢駅前 のホテル金沢に会場を移し全体交流 会が開催された。

交流会の冒頭、地元の森山少年連 盟の「子どもはしご登りクラブ」の 皆さんによる演技披露があり、一生懸命な演技に 会場は歓声に沸くととも に、伝統を後世に伝える ために地道な技術継承が 行われていることを実感 した。

集会2日目は4つの分科会に分かれ、身近なテーマや水循環、歴史、フィールドワーク等、参加した

各々はそれぞれ学習を深めることが できた。(各分科会報告参照)

当日は3連休の中日で金沢市周辺の道路が渋滞し、フィールドワーク参加者の開場到着が遅れるというハプニングもあったが、2日間の締め括りとして総括集会が開催され、辻



谷実行委員長より、 この会の開催についてご尽力された 現地実行委員会をはじめとする関係 者に対して労をね ぎらう言葉がかけ られた。

最後に、「日本 で水を取り巻く環 境が大きく変わろ

うとしており、水を経済の道具として利用しようとする動きがある。」「きれいな水と命をまもる運動を通じて対抗していかなければならない」との集会アピールを参加者全体で採択し、全国集会は無事幕を下ろした。

## 第1分科会

## 「入門講座」あなたは何を使って洗っていますか - これでわかる! 石鹸の秘密-

第一分科会「入門講座」あなたは何を使って洗っていますか — これでわかる! 石鹸の秘密 — に宮崎浩幸と柿田英明で参加しました。

分科会では実験を交えた講義でしたので、非常にわかりやすい講義で した。

石鹸には、台所用、洗濯用、お風呂用(シャンプー・ボディソープなど)に分類され管轄する国の省庁により、法律で成分表示義務の有無が分かれるとの事でした。台所用、洗濯用は表示義務がないので企業判断になり、お風呂用は体に直接使用するものなので表示義務があります。

表示義務のない製品は都合の悪いものを表示しなくても違反にならないのです。

合成洗剤主成分の中には9種類もの有害化学物質が含まれています。これらの化学物質は、1999年国会において全政党が賛成して作ったPRTR法(化学物質排出把握管理促進法)で有害物質に指定されているものです。

体に害のあるものを直接皮膚に塗布したり口にしたりしているのです。 使った後に川や海に流れ込んだものは 汚染し生態系に悪影響を及ぼします。 反面、石けんは「石けんの秘密」 をよく知って使用すればどんな洗剤 よりも汚れを落とすだけでなく、川・ 海に流れても「魚のえさ」に変身し て水環境を守ることになるのです。 洗う成分で安全安心なのは 5000 年 前から使われている「石けん」なの です。

ちなみに石けんの上手な使い方は、 汗や塩のついたものを洗うと泡のた たない石けんになり石けんカスが出 たり黄ばみの原因になるので一旦汗 や塩を洗い流した後に石鹸で洗うと よいとの事。また酢と石けんが混じ ると石けんが分解され油に戻ってし まいました。

## 第2分科会

## 「化学物質と私たちのくらし」

#### ~各地の取り組み紹介とくらし方提案~ 金子 茂樹



第2分科会では、私たちの暮ら しの中にある化学物質と、日常生 活の関わりについて報告と提起を 受けるとともに議論を深めました。

一般的に「化学物質」と呼ばれている物質は、人工的、または工業的に合成された物質を指していて、世界で工業的に生産されているものは約10万種で、そのうち

1,000 万トン以上生産されているものは、約5,000 種にもなります。すぐ挙げられるものだけでも合成洗剤、柔軟剤、殺虫剤などいくつもあると思います。私たちには、できる限り化学物質に頼らない暮らし方を考え実践していくことが求められています。今回は、その中でも生活に密着している4つの報告を受けました。

また、意見交換の中で、各団体の メンバーの高齢化と次世代への運動 継承についても課題として取り上げ られました。

#### 報告1

新生児の沐浴に関する調査と問題点について報告を受けました。 新生児は生まれたときから胎脂に守られています。それを合成洗剤の沐浴剤で除去してしまうだけでなく、母親との接触で受け取った皮膚常在菌(皮膚を守ってくれる)も洗い流してしまい、皮膚を傷つけることになってしまっているとのことでした。

代謝が盛んな赤ちゃんの皮膚を清潔で健康に保つには、洗いすぎに注意しつつ、天然油脂で作られた石けんを使うのが一番良いとのことでした。

#### 報告2

洗濯用柔軟剤による被害例について報告を受けました。

最近「香り」による健康被害が急増しているとのことでした。中でも問題になっているのが、洗濯用柔軟剤の香りに対するものだそうです。「香り」に苦しんでいる人を調べると、化学物質過敏症の診断を受けている人と、そうでない人で差はないとのことでした。

現状では法的規制がなく、行政に 相談してもほとんど何もできないよ うです。早急に実態調査をして、対 策やケアを講じてほしいものです。

#### 報告3

柔軟仕上げ剤に関する行政への取

り組みについて、埼玉連絡会の方から報告を受けました。埼玉では行政に対し粘り強く取り組みを展開していて、結果、県広報誌やポスターでの啓発活動につながったとのことでした。

#### 報告4

東急電鉄による改札口等での「天然アロマによる香りの空間演出」の問題について報告を受けました。鉄道会社はお客さまサービスの一環として芳香拡散器によるアロマ空間演出をおこなうとのことですが、不特定多数の人々が往来する場所での実施は、化学物質過敏症を抱えた人などへの配慮が欠けているといわざるをえません。

自分にとって良い香りも、他人とっては「香害」の場合もあるのです。

## 第3分科会

# 「金沢の水環境・上流から下流まで」

渡久地 政彦

第3分科会は「金沢の水環境・上 流から下流まで」と題し、金沢での 水環境をみんなで学び考える分科会 でした。

はじめに、「里山の水環境」ーい しかわ自然学校の取組みーというテー マで自然学校インストラクター松枝 章氏の講義をうけました。

いしかわ自然学校とは、子供会・学校・親子・個人・企業で参加し、 白山のてっぺんから、森も、里山も、 川も、日本海の中まで自然の神秘さ を感じ取り、自然とふれあいながら、 自然と人のさまざまな関係に気づき、 より良い関係づくりについて楽しく 学べる場として 1999 年に設立され た団体です。

身近な自然環境を保全するとともに、そこに生きる動植物とのふれあいの機会を提供し、金沢市民の健康で潤いのある生活の確保や、さまざまな活動団体と連携・協同し、多彩な里山体験プログラムを提供することで、多くの人々の利用を促進し、里山の自然を守り育てていく活動で、毎年4万人が参加利用しているとの事でした。

次に、「金沢市末浄水場の取組み緩速ろ過と小水力発電」について

金沢市企業局の木村さん・高藤さんより講義を受けました。

末浄水場は犀川ダムを水源とした 自然流下方式の浄水場で、給水能力 の約4割を緩速ろ過方式で浄水処理 をしています。

緩速ろ過のメリットは、急速ろ過 方式で用いられる凝集剤等を使用せ ず、ろ過池の砂の中に常在する自然 由来の微生物の力を利用することで 良質な水を作ることができる点です。 また薬品の注入設備などが必要ない ため、低コストでの運用が可能な点 もあります。

デメリットとしては、広い敷地が必要であること、水ができるまでに時間が掛かること、悪天候などで水源水質が悪化すると処理が困難になるなど、自然環境の変化に影響を急速っとがよっているとです。末浄水場では影響を急速った。また小水力発電は、自然の高発電とが大年間で36万kw(浄水場の使用電力の35%)を発電しているとの事でした。自然の力を上手にもとの事でした。自然の力を上手にやさしい設備という印象を受けました。

また、金沢市歴史都市推進課の木 村和茂さんによる「金沢の用水・そ の保全と活用」と題する講演では、 昔から金沢では『弁当を忘れても傘 は忘れるな』と言われるくらい雨の 多い地域で、金沢を流れる用水は、 街並みに潤いと安らぎをあたえ、昔 から生活の水として大切な役割をも ち利用されています。他の都市とは 比べ物にならないくらい数が多く、 それぞれの用水が家と家の間をぬけ て、網の目のように流れていて水が きれいで、水量も多いことが特徴と いわれている。代表的な用水として、 辰巳用水、鞍月用水、大野庄用水な どがあり、どれも 1600 年代より利 用され歴史を感じることができます。

一時は近代化により水質の悪化や 悪臭を放っていたが、用水保全条例 により定期的な清掃が行われ、用水 沿いの散策路の整備などで水質が改 善され用水の景観もよくなり、観光 客も多く訪れるようになったとの事 でした。

金沢では、夏は用水のせせらぎに 涼を求め、冬は豪雪の金沢の消雪を 行い、生活の中に用水を上手に取り 入れ、歴史的遺産の用水を守る金沢 市民の姿を見ることができました。

## 第4分科会

### フィールドワーク報告 坂内明

集会2日目、金沢駅西口から午前9時に出発し、一路金沢市企業局の 末浄水場に向かった。

車内では実行委員より当日のスケ ジュール説明を受けると間もなく末 浄水場に到着した。





国指定名勝 末浄水場園地

到着後は会議室にて職員の方から 金沢市の水道の歴史、環境負荷軽減 活動、上水汚泥の再利用についてス ライドをもとに説明を受けた。

末浄水場は昭和5年に金沢市で最初に創設され、犀川の漂流水を水源とし緩速ろ過方式によって19,500㎡/日の給水を開始した。その後人口の増加に対応するため、昭和40年に犀川ダムの完成によって急速ろ過方式が拡張されて、現在は最大105,000㎡/日の浄水処理能力を有し



緩速系ろ過池



辰巳ダム

ている。昭和60年には環境及び景観に優れた浄水場として「近代水道百選」に、また、平成13年には緩速系浄水施設が「登録有形文化財」、平成20年には末浄水場敷地全体が園地として「登録記念物」に登録されるなど大変景観に優れ、市民の憩いの場となる浄水場であった。

また、かつては横浜でも採用していた緩速ろ過方式が現在も稼働され、 末浄水場緩速ろ過池でろ過された水 を殺菌処理し、ボトル詰めした水が 「金沢の水」として製造されており、 口あたりがまろやかでおいしい水と 評判となっているとのことであった。

この時は緩速系ろ過池において、 10年毎に行うろ過池の砂を洗って いる状況も見ることができた。

その後、浄水場の原水導水管の遊休落差を活用し発電した電気のすべてを浄水場内で使用する約35%の電気を賄う小水力発電設備を見学し、また、国指定の名勝、末浄水場園地内を自由に見て回った。園内は大変整備され、景観の美しい浄水場であり、市民に親しまれている印象を受けた。



近代水道百選証



辰巳用水内手掘り跡



用水外側の補強の堤が現存している様子

浄水場の中央管理室では 24 時間 体制で市内の配水場、制御所、ポン プ場に加え、市内の残塩ポイント (おそらく、自動の水質計器)の管 理を 2 名の職員で行っているとのこ とであった。

その後バスは、通常時は水を貯めない流水型の洪水調整専用ダムである辰巳ダムを見学した。洪水調整専用ということでダムの堰堤はあるものの、上流側にあるはずの水がなく川の流れだけを見てとれる珍しい光景であった。

辰巳ダムを後にし、ダムのすぐ下流に位置する国史跡である辰巳用水内に向かった。辰巳用水は金沢城内外の防火機能の向上、水堀化による城の防備強化など水利改善を主な目的として、江戸初期に加賀藩が造営した。今回は隧道内に立ち入ることができた見学ということで、当時の岩盤をノミで手彫りをした跡など間近に見ることができ、江戸初期の加賀藩の優れた土木・測量技術水準を感じ取ることができた。

最後に、今回の全国集会のフィールドワークを企画された実行委員会の方々に感謝を申し上げたい。